

〔『法学新報』第25巻10(291)号 大正4年11月1日〕

○中央大学柔道部大会 今秋都下柔道界の先駆者たるべく中央大学柔道部にては去十月十日午前十時より第十回柔道大会を其大講堂に於て開催したり会する者二百余名都下の各専門学校及び各中学校四十余校遠くは埼玉千葉より参加せるものもありて頗る盛会を極む午前中紅白勝負あり各組三十余人にて相戦ひ白軍の副将小野は紅軍の副将大将二人を倒して特別賞を得遂に栄冠は白軍の頭上に帰す午後一時より各学校選手二本勝負五十六組有りて直ちに有段者二本勝負に移る其勝敗は次の如し

- | | | | | | | | | | | |
|------------|-------------|------------|----------|------------|-------------|---------|------------|-----------|----------|------------|
| 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 二段平賀(早大) ○ | 二段西久保(一高) × | 同 長富(日大) ○ | 同 黒沢(独協) | 初段大窪(高師) ○ | 同 平野 × | 同 (講) ○ | 初段中瀬(早中) × | 同 松島 ○ | 同 齊藤(商船) | 初段山田(講) ○○ |
| | 二段水野(深田) × | 同 大部 × | 同 黒沢(独協) | 同 戸次(成城) ○ | 初段久保山(豊中) × | 同 (講) ○ | 同 工藤(講) | 初段下山田(深田) | 同 朝川 | 同 朝川 |
| | | | | 初段鈴木(深田) | | | | | | |

(同 吉田) (同 品川(郁文))

次で三段橋本氏に初段三人二段二人の五人掛有り四人目の大部二段(本学)の爲め小内刈に敗れ遂に不成功に終り次に太田運動部長謝辞を述べらる最後に当日の呼物たる高点勝負に入る先づ無段者優勝者中より各学校一名つつの選手を出たし一本勝負にて勝敗を争ひしに三人抜同志の市橋対園田(講)の勝負にて口惜しくも市橋(本学)敗を取り園田(講)優勝者たり尚有段者中より一人つつの選手を各学校より選ひ同しく一本勝負にて勝敗を争ひし結果二段水野(深田)二人抜きて優勝す斯くて勝者に賞品を呈し来賓選手諸氏に粗飯を饗応して参会せしは七時過ぎなりき当日は太田部長佐藤幹事を始めとして内田宮川御船の各五段及び高橋、大角、藤、田口の各四段諸先生の多数列席ありしは光榮とする所なり(委員報)